

発行／坂城町公民館 発行人／柄澤 俊彦 編集／広報部 印刷所／(株)シーデンス
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町中之条2468 文化センター内
(TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722)



❖主な内容❖

第69回坂城町二十歳のつどい	2～3P
第52回坂城町文化祭	4～5P
ふるさと探訪PART118	6～7P
お知らせ、館説開畝	8P

秋のスポーツ大会

10月5日(土)、鼠橋運動公園マレットゴルフ場で「秋のスポーツ大会」が行われ、28チーム109名の皆さんが参加しました。

「秋のスポーツ大会」は、例年この時期に行われていた「町民運動会」に代わる取組みとして今年度初めて開催しました。

プレー中は、どのチームも皆さん、狙いを定めて集中しながらも笑顔や笑い声にあふれていて、リラックスしながら楽しんだ1日となりました。

二十歳おめでとうございます

8月15日（木）、第69回坂城町二十歳のつどいを町文化センターにて開催しました。
町内では、平成15年4月2日から平成16年4月1日生まれの125名が20歳を迎えており、そのうち101名の皆さんが式典に出席されました。

式典では、まず、戦没者の方々への追悼と世界の平和を祈るため黙祷が行われました。その後、二十歳のつどい実行委員会代表の榊原陽太さんがあいさつしたほか、中学校時代の担任の先生からお祝いの言葉や歌が20歳を迎えた皆さんに贈られていました。

第69回 坂城町二十歳のつどい

実行委員会 代表あいさつ



榊原 陽太さん

本日、二十歳のつどいを挙行することができたのは、ご来賓の皆様、先生方、地域の皆様、そして、いままで私たちを育ててくれた家族など多くの方のお力添えのおかげです。
また、山村町長をはじめ皆様からの温かいお祝いと激励のお言葉をいただきまして心より感謝申し上げます。
現在はコロナウィルスの流行が落ち着き、制限のある生活のほとんどが終わりを迎えました。人と人との繋がりが半強制的に隔離されたコロナ禍の時代を皆様はどのように過ごしていたのでしょうか。
今日は二十歳を迎えた皆さんに、「人を頼る勇氣」というテーマを持ってお話し

させていただきます。私は高校時代バレーボール部に所属していました。そして、高校3年の夏、あの恐ろしいコロナウィルスにかかりました。その時期が、最後の夏の大会という高校生活において大事な大会の直前のことで、その影響により、大会への参加が許されませんでした。
私たちは、チーム競技のバレーボールに打ち込んでいたため、多くの仲間の出場機会を奪ってしまい、とてもつらく、遣る瀬ない気持ちになったのを覚えていきます。
その後も施設療養とこのとで強制的にホテルへ隔離され、仲間にも申し訳ない気持ちと孤独感に押しつぶされそうな日々を過ごしました。
隔離が終わっても迫る受験、ストレスからくる胃腸炎などを理由に学校へ足を運ぶことが減り、自ら人との隔離を選択しました。そんなとき、私を救ってくれたのが中学校の恩師と友人でした。

不満と不安が入り混じっていた私は、恩師のもとへ足を運ぶと、私の話をうなずいて聞いてくださり、親身になって対応をしてくださった日々を思い出してなんだか安心して、悩みが和らぎました。
また一度大学受験を失敗して浪人した私に、友人たちが、週に何日か一緒に勉強しようと言ってくれて、一年間ずっと私と一緒に勉強を続けてくれました。それらの経験は、大学に受かったことよりもはるかにかけがえないことだったと感じています。
私たちの向かう未来は予測できないものとなっていきますが、いつの時代も、人は人に影響されて生き方や喜怒哀楽が変化していきます。
二十歳を迎えた皆さんの中には社会人として働いている人、学問を修めたり社会人の準備をしたりするため進学した人、今一度人生の休息をとっている人、また結婚した人など、その他、多くの境遇を迎えている人がいることだと思います。

しかし、そのどのステージにおいても苦しくなったときには、ぜひ人を頼ってください。ここにいる皆さんは、ずっと私の話を静かに聞いてくださっているのだから、きつと困ったときには親身になって話を聞いてくれるはずですよ。
人は気持ちがあふさった時、一人でどうにかしようとしません。
しかし、そこで一つ勇氣をもって信頼している人を頼ることで、見えていなかったものが現れたり、少しだけ心が軽くなったりすることがあるかもしれません。
最後になりましたが、みな各々の進路があっても、心のよりどころとして、こ



こ坂城町で過ごした経験というものには全員が共通に持っているものです。それぞれ羽ばたいていく場所は違いますが、そのつながりを心に持つておくことで少し安心するような気がします。それぞれのス

テージで皆様が一層活躍されることを祈っています。簡単ではございますが、令和6年二十歳のつどい実行委員会代表のあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



実行委員の皆さんご協力ありがとうございました。

榊原 陽太さん (実行委員長)	滝澤 燦太さん 竹田 淳紀さん 栗林 光琉さん 中村 星南さん	浅野井 彩さん 高松 千彩音さん 西沢 雅大さん	大橋 明佳さん 大井 真結美さん 宇野 香澄さん
--------------------	--	--------------------------------	--------------------------------

分館スポーツ大会

7月20日（土）、坂城町体育館で、令和6年度 分館スポーツ大会（スマイルボウリング競技）が行われ、11分館、約200名の皆さんが参加しました。6レーンに分かれてのリーグ戦で、10本のピンを1チーム5人で協力して倒していくというルールで行われ、上は90歳代の方から下は小学校低学年まで、幅広い世代の皆さんがチーム一丸となってスマイルボウリングを楽しみました。



500字リレートーク

子どもの目線でチャレンジ！

中乗 真紀

子どもたちに関わる仕事をさせていただいてから10年になるうと思っています。
我が子を見ていて思うことは、子どもたちは本当に忙しいということです。いくつもの習い事をしている小学生、中学生や高校生は部活動や定期的に行ってくるテストに向けてのテスト勉強もあり、日々本当に忙しそうです。

そこで私も子どもたちの気持ちになつてみようと考え、漢字検定を受けてみることにしました。検定級は高校卒業程度。問題集を購入しました。日頃、携帯やPCの変換機能に頼りっぱなしで、読みは出来ても、書くことが難しい。類義語・対義語、見たことの無い四字熟語などもあり、受験を決めたことを後悔しました。15分もすると睡魔が襲ってきて、仕事を言い訳に、勉強しない日もありました。検定日が近づくにつれ、焦りはするものの、思うように勉強は進まず当日を迎えました。

席に着くと、周りは小学生と中学生。学生だった頃を思い出し、懐かしさと緊張感でいっぱいになりました。子どもたちと夫に、「お母さん、頑張ったね！」と褒めてもらい、気分をよくし、子どもたちのこともたくさん認め、たくさん褒めてあげたいと思いました。そして、次は英検に挑戦です。

次のリレートークは、西澤瑞恵さんをお願いします。

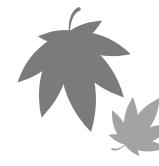




26日午後開催された記念講演会、さかきふれあい大学教養講座「信濃村上氏フォーラム」語り継ぐ村上義清」には、約170名が参加し、文学的視点や文献史学から見る村上氏、村上義清についての講演に熱心に耳を傾けていました。第2部のパネルディスカッションでは、長野県立歴史館特別館長 笹本正治さんがコーディネーターとなり、第1部で講演してくださった、長野県立大学教授 二本松泰子さんと長野県立歴史館文化財専門主事 花岡康隆さん、そして葛尾城跡保存会顧問 田原茂樹さんを加えた3名のパネリストが「語り継ぐ村上義清」をテーマにさまざまな視点でのディスカッションが行われました。



村上氏フォーラム



第52回 坂城町文化祭開催

～したしむ・つくる・ふれあう・ささえる～

10月26日（土）、27日（日）、の2日間、坂城町文化センターと坂城町体育館、文化の館の3会場で、第52回坂城町文化祭を開催しました。

書道、盆栽、生け花、絵画、レカンフラワー、写真、陶芸、俳句、短歌、詩など様々な分野の芸術作品が展示されました。今年は、町内3保育園と坂城幼稚園の園児による作品や坂城町国際交流協会による、ポーランドの子どもたちの絵画の展示とウクライナへの支援金の募金箱の設置を行いました。

芸能公演に参加された21団体の皆さんは、日頃の練習の成果を発揮され、素晴らしいステージを披露していただきました。

文化の館で開催されたお茶席は、初日は裏千家、2日目は表千家により行われ、茶事を楽しみにしていた方や、作品展示、芸能公演に参加された方が文化の館を訪れ、美味しいお茶とお菓子のおもてなしに、普段とは違うひと時を過ごしていました。



公民館文化講座木彫教室



信濃書道会



愛盆会（盆栽）



坂城町国際交流協会



坂城文化争クラブ



三藤会（三味線）



坂城子ども能楽教室



お茶席



より身近な 公民館となるように

副館長 田原 茂樹

この度、町公民館副館長を務めさせていただきます。公民館の役割りは、以下の三つとお聞きしています。

- ① 地域生活に根ざす事業「集まる」
- ② 生活文化を高める事業「学ぶ」
- ③ 地域連帯を深める事業「つなぐ」

「温故知新」という言葉があります。「古くからの教えに学び、新しい知識や見解を開いていくこと」これは素晴らしいことですが、そこで留まてはいけません。これからは「温故知新」で進めなければならぬ。とある所に書かれていました。現代は生活の多様化から、高度化する学習ニーズや社会の変化に対応した運営が求められると思います。館長、職員の皆さまと協力し、微力ながら公民館活動を進めたいと思います。より身近な公民館となるよう皆さま、どうぞよろしく願います。

公民館行事より リトミック教室

リトミック教室で、7月3日（水）に七夕、10月30日（水）にハロウィンを行いました。七夕では、折り紙などで飾りを作り、短冊に願い事を書いて笹に飾りました。ハロウィンでは、それぞれが仮装してお菓子入れのカバンを作りました。12月はクリスマスベルの演奏やサンタさんからのプレゼントも用意しています。



リトミック教室では、随時受講者を募集しています。詳しくは、坂城町公民館（文化センター内）82-2069へお問い合わせください。



特集 ふるさと探訪 PART 118

葛尾城跡と史蹟勝地保存会

葛尾城跡は村上氏が坂城郷に居館を構え、武田氏に攻められ天文二十二年（一五五三）自落した山城です。村上氏は越後の上杉氏を頼み、その後、川中島合戦が始まります。最後は、徳川氏の「砦」として使われましたが、江戸時代に「一国一城」となり廃城となりました。この葛尾城は険しい地形を利用した大堀切や土塁を多数備え、本郭から北に向かつての尾根筋には高低差の大きな堀切が何本もあります。姫城、岩崎城などへの複数の逃走ルートが持てる、敵にとっては厄介な城ですが、常にな大将や多くの兵が住む場所ではなく、見張りを置く程度で、敵が攻めてきた時に敵の動きをつかみ、守りを固めて抵抗する砦でした。



葛尾城址より見たる坂城町

による史蹟名勝天然記念物調査が行われ、調査員の藤沢直枝氏が報告し、それを基に昭和四年（一九二九）六月に埴南農蚕学校（現坂城高等学校）教諭の中島惣左衛門氏の提唱により「坂城町史蹟勝地保存会」が設立されました。この年十月、ニューヨークに始まった世界恐慌は、日本を直撃し未曾有の大不況（昭和恐慌）となりました。生糸相場が暴落し、長野県農家の約八割を占める養蚕農家は影響をともに受け、繭の価格は前年の半分以上に値下がりし、生産費の半分も回収できない状態でした。

その三年後の昭和七年（一九三二）四月二十四日葛尾山の山頂で、葛尾城・姫城の保存事業竣工式に併せ村上義光公六百年祭が行われました。鎌倉時代に幕府軍と戦った後醍醐天皇の皇子の護良親王を守り、討ち死にを遂げた村上義光公は「忠臣の鑑」と、当時は教育されていました。

昭和八年（一九三三）に保存会により発行された「葛尾城址保存事蹟概要」から事業の内容を知ることができます。

葛尾城址記念塔の建設（工事費七百円）、矢羽型揭示廻転板の建設（工事費 五十円）、城址土砂崩壊防止事業（工事費 五十円）、二ノ丸址、堀切址、三ノ丸址、水ノ手址（三力所）に標柱を建設しました。また、町内史蹟勝地保存事業と



葛尾城址より見たる姫城址

して、お堀の橋、村上義清公御館址、古墳、奈良朝時代某古寺址、坂城駅天領坂城陣屋址、生神昌言社に至る案内、葛尾城址に至る案内（三力所）、村上氏居館址道に標柱を建設しました。

この時に坂城町名勝絵葉書を発行しています。第一集は「横町全景、立町全景、葛尾城址と村上義清公墓、坂城神社、大英寺全景、満泉寺及位牌殿、榎坂と弁の渡、坂城町全景」

第二集は「磯部より見たる葛尾城址、葛尾城址より見たる姫城址、駅より見たる飯縄の奇岩、葛尾城址より見たる温泉地方、葛尾城址より見たる坂城町、御所沢塔の平、十三度権現、葛尾城址より見たる鏡台山、常山隄より見たる昭和橋、大英寺の桜花」です。



拝殿前の集合写真

その式典で披露された思想善導、軍国主義を感じる式辞や祝辞の一部を要約して紹介します。

式辞

当会保存事業が工成り式典を奉行するに当たり、我が国体の精華はこれ教育の淵源にして報本反始、我は億兆の魂なり。先人の偉業遺蹟の功業遺址の以て発揚するは、愛国の志士感嘆する大なるもの。本会、当町史蹟勝地の顕彰と保存に心を傾け、県の補助、激励と、天下の淨財抛出とに依り、勝地なる葛尾城址、姫城址の遺蹟に愛国愛郷の霊を打ち込み、百年事業をなし、実に君国報恩の結晶なりと信ず。ここに国体を闡明し、歴史と伝統の光を讀し、国運の前途に偉大なる光明を展開し、精進努力し有終の美を致さん事を期す。

祝辞

史蹟を永遠に保存するは、愛郷の觀念を生じ国家思想を発揚し、国民精神を涵養する所以。本日、保存工事成り村上義光公の六百年祭に兼ね竣工式を挙げるは、機宜に適したる措置にして慶賀に堪えざるなり。将来益々郷党一致、此の貴重なる史蹟を愛護し、之を後世に保存せらんことを願う。

（長野県知事 石垣倉治）
史蹟勝地保存会が保存工事落成式並びに村上義光公六百年祭を挙げるに当たり、史蹟勝地保存会の此の事業は誠に時

局を匡救する有力なる企であると信じ、慶賀に堪えざる次第です。

（町村長代表 屋代町長 市川澄丈）
かの上海に、満州に皇軍が奮戦力闘している姿は全く大和心を表象する桜花である。花は桜木、人は武士と申すが皇国尚武の精髄が如何に大和桜の如く国の内外に爛漫と咲き出す。坂城は北に山を負った心地のよい地、山河形勢のまとまった地、歴史的由緒ある地であり、徳川期には陣屋を置き、宿場として繁栄した。幾世代にわたり信州有数の文化の地に史蹟勝地保存会設立は、坂城の既往、現在を知り更に将来に進展すると思われ、期待囑望する所以である。葛尾山上に立ち無限の蒼空を仰ぎ、静かに村上の苔蒸せる古祠に跪拝する時、転た万古玄妙の内に通うものを覚える。

（学校長代表 戸倉小学校長 中村常雄）

この式典会場では、記念スタンプの押捺、記念品の配付、祝賀会記念撮影が行われました。当日の午後一時からは、坂城小学校講堂で記念講演会が開かれました。講師は衆議院議員の鷺沢与四二氏、地方史家の藤沢直枝氏、ドイツ文学者で坂城小学校校歌の作詞作曲をした林久男氏の三名でした。また、記念史料展覧会が中央公会堂、

大宮公会堂にて開催され、入場者は、総延人数三八五二人でした。

挙町一致、協賛応援の盛況振りは、「坂城郵便局による紫色スタンプを使用し宣伝。坂城町商工会は、当日、早朝より煙火を打ち上げ、店頭装飾・記念大販売、チラシ、ポスターを配布。坂城町青年会、立町・横町壮年会、坂城町女子青年団、信濃電燈会社、坂城町貸座敷組合、坂城劇場、菱小自動車店、坂城町田町山根屋、大宮区及び葛尾会は大いに協力、協賛」とあります。また、知事、来賓を招待し町内協賛会員含めて百名の大夜会を坂城劇場（現都筑製作所）で開催しています。午後六時開会で、余興として葛尾音頭、坂城音頭の舞踊等も披露され、午後九時散会と記されています。

最後に、概要の末尾にあった中島惣左衛門氏の熱き思いの一部を紹介します。

中島惣左衛門 跋

知るは愛するの基である。郷土祖国に対する愛、如何にして涵養し、如何にして育成すべきか。世相に刺激され天職に自覚し、郷土研究の真探教興の潮に乗った自分は地方郷土史の研究に頭を入れ、資料をただ教壇上のものとしたり、一席の座談化するに忍びなく研究調



葛尾城址より見たる鏡台山

査につれて、煙滅に破壊に瀕しているものを続々発見した時の嘆きを無謀にし、生意気にも町内元老や有識者に訴え、遂に保存会が生まれ、保存の事業に盲進しました。事の性質が国家的であり教育的であり思想報告であり、多くの観光客を引いての地方開発の基礎であり、県や全国の人格者の共鳴を得られ、孤軍奮闘の形でしたが、茲に報告し得るまでに進行的にしました。資金をご寄附下さった方に対しては御礼の言辞を有せず、一生の感銘であります。此の事業が一時的なお祭り騒ぎに終わらぬ為には、此の誠心的意義を世の人々が体験して尚、常に新生命に生きるにあると思います。本会の此の祭典に亦事業にしても、寄附者方の御芳志と会長外役員諸賢のご労力や各

（葛尾城跡保存会

顧問 田原茂樹）

参考資料

「葛尾城址保存事蹟概要 中島惣左衛門」『坂城町誌下巻』他

人権を尊重し豊かな 福祉の心を育む町民集会

日 時 令和6年12月7日(土)
受付 12:30～
開会式 13:00～
学習発表 13:20～
記念公演 14:00～
会場 坂城町文化センター 大会議室
内容
 ・小学生人権学習発表(村上小学校)
 ・記念公演
 『泥かぶら』(村上小学校4年生児童出演予定)
 作・演出：眞山美保 出演：劇団新制作座
 ※申込不要(定員150名)

第54回坂城町元旦マラソン大会

日 時 令和7年1月1日(水)
受付 9:00～
開会式 9:30～
競技開始 10:00～
会場 坂城町文化センター
クラス
 ・親子ペアの部(1.5km)
 ・小学生の部(1.5km、3km、6km)
 ・一般(中学・高校生含む)の部
 (1.5km、3km、6km)
申込締切 12月16日(月)まで
申込先 坂城町文化センター
 ※荒天の場合は中止となります。
 ※当日の申込みも可能です。



申込書(町HP)

第58回坂城町席書大会・書初展

日 時 令和7年1月5日(日)～7日(火)
5日(日)
受付 9:00～
書初め 9:30～11:30
一般公開 15:00～16:00
6日(月)
一般公開 9:00～16:00
7日(火)
一般公開 9:00～15:00
会場 坂城町文化センター体育館(受付・書初め)
 坂城町文化センター大会議室(一般公開)
申込締切 12月16日(月)まで
申込先 坂城町公民館(文化センター内)



今後の行事予定

- ◆スキー・スノーボード教室
(対象:小学校3年生以上中学生まで) 1月19日(日)
- ◆スポーツ少年団交流大会 2月15日(土)
- ◆こども茶の湯教室 3月1日(土)

原稿募集のお願い

来年、戦後80年の節目を迎えるにあたり、平和の大切さを再認識するため、戦争体験談などを募集します。

戦中、戦後に苦難の道を歩まれてきたご自身やご家族などから聞いた貴重な体験を後世へ伝えるため、公民館へ投稿してください。

館説 閑歌

9月に葛尾分館親善球技大会が行われました。坂端・日名沢・大宮・新町の4区で葛尾分館協議会を結成し、今年で48回を数えるこの大会は、年齢・性別を問わない相互の親睦と健康の増進を図ることを目的としています。種目は「ソフトボール」でした。

坂城町公民館で行った春のスポーツ大会でも「ソフトボール」を行いました。分館長・体育部長合同会議で協議した折に、「男女別にすることについて、来年度検討してほしい」とのご意見をいただきました。今までは「分館対抗」として計画されていたので、年齢や性別、分館単位のチーム等、できるだけ平等にせざるを得なかったのかもしれないが、「親睦」という視点で考えれば、年齢・性別を問わなくても、安全面さえ考慮されていけば問題はないでしょう。今後は、分館の枠を越えたチーム編成をしていく工夫など、公民館全体で楽しめる仕組みづくりを考えていく必要があるのではと感じました。

大会では、ホームランも出るバッティングの素晴らしさに加えて、守備のファインプレーも見られました。木陰で応援する皆さんのところを、さわやかな秋の風が通っていききました。こんな時間っていいなあと感じた球技大会でした。役員、参加者の皆さんお疲れ様でした。